

市 政 世 論 調 査 報 告 書

(第35回・平成15年)

調 査 項 目

第 1 章

定 生 防 文 地 都 市	犯 化 政	住 活 ・ 振 域 市 へ	防 興	意 環 災 の 福 交 の	対 推 要	向 境 策 進 祉 通 望
---------------------------------	-----------------	---------------------------------	--------	---------------------------------	-----------------	---------------------------------

第 2 章

「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の達成度

八 王 子 市

はじめに

長期にわたる景気低迷により、右肩上がりの経済は大きく転換しています。また、かつて経験したことのない少子・高齢社会の到来など、今後の都市経営は、これまでのような高度成長を前提とした拡大指向の網羅型から、着実な計画に基づく選択型への転換を迫られています。

本市では、公募による市民の皆さんからご提案いただいた素案をもとに、新たな基本構想・基本計画として「人とひと、人と自然が共生し、だれもが生き生きするまち」をまちづくりの基本理念とした「八王子ゆめおりプラン」を策定し、本年度から実施しています。

また、8月には、このゆめおりプランを着実に推進していくために、市の組織を的確で効率的な行政運営を可能とする組織に再編し、市民の皆様との新たな協働関係を築く中で、全庁を挙げて様々な課題への取り組みを始めました。

今後は、「行政主導のまちづくり」から「市民と行政が対等な立場で、共通する目標の実現に向かって協調・協力する協働のまちづくり」への転換や、積極的な情報公開と広聴・広報活動の充実などにより、市民と行政との相互理解を深め、説明責任を果たし、市民に納得いただける質の高いサービスの提供に努めて参ります。

この『市政世論調査』は、広聴活動の一環として、市民の皆様の生活環境への意識や市の施策に対する評価及び要望を把握し、これからのまちづくりの資料とするために毎年実施しています。

なお、今年度の市政世論調査では、ゆめおりプランに掲げた各施策に対する指標の達成度を計るため、第2章に『「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の達成度』を調査項目として設定しています。

今後も、市政世論調査を通じて市民の皆様の市政への参加を図り、調査結果を有効に活用し、市民の皆様と市との協働によるまちづくりを推進してゆく所存です。

最後になりましたが、この調査にご協力いただきました市民の皆様に心から御礼申し上げます。

平成15年9月

八王子市長 黒須 隆一

目 次

I	調査の概要	3
1	調査の目的	3
2	調査設計	3
3	調査項目	3
4	回収結果	4
5	報告書の見方	4
6	回答者の属性	5
II	調査結果の分析	13
	第1章	13
1	定住意向	13
1-1	定住意向	13
1-2	住み続けたい理由	16
1-3	市外へ移りたい理由	19
2	生活環境	21
2-1	生活環境の評価	21
3	防犯・防災対策	28
	(1) 防犯対策	
3-1	「生活の安全・安心に関する条例」の認知状況	28
3-2	日常生活における生活環境の安全度	29
3-3	現在の八王子市の治安状況	31
3-4	犯罪や危険との遭遇の有無	32
3-5	犯罪や危険に遭遇した場所	33
3-6	防犯対策の必要性	35
3-7	実行している（していた）防犯対策	37
3-8	防犯情報入手の際、一番有効と思う情報媒体	38
3-9	勧誘行為による迷惑経験の有無	39
3-10	勧誘内容	40
3-11	現在の勧誘行為についての印象	41
	(2) 防災対策	
3-12	災害に備えた準備の有無	42
3-13	大地震に備えた準備状況	42
3-14	建物倒壊防止や家具の転倒防止策の有無	43
3-15	自宅周辺の危険な場所の有無	44
3-16	居住地域の避難場所の認知度	45

(3) 自主防災組織	
3-17 自主防災組織の必要性	4 6
3-18 自主防災組織の結成状況	4 6
3-19 自主防災組織への参加の有無	4 7
3-20 自主防災組織に参加していない理由	4 8
3-21 自主防災組織や町会・自治会での防災訓練の実施状況	4 9
3-22 自主防災組織の活動に必要なこと	5 0
4 文化振興の推進	5 1
4-1 最も関心のある芸術・文化	5 1
4-2 1年間に鑑(観)賞または参加した芸術・文化活動	5 2
4-3 1年間の芸術・文化活動への参加頻度	5 3
4-4 芸術・文化活動から最も得られるもの	5 3
4-5 芸術・文化活動を行う際の情報媒体	5 4
4-6 文化施設使用時の選択理由や基準	5 5
5 地域福祉	5 6
(1) 地域での支え合い	
5-1 近所の人とのつき合いの程度	5 6
5-2 悩みや不安の有無	5 7
5-3 悩みや不安について相談したい相手	5 8
5-4 日常生活が不自由になった際に地域に望むこと	5 9
5-5 地域で協力して取り組む必要がある問題	6 0
5-6 社会福祉サービス充実のための行政との関係	6 1
5-7 今後最も重視していくことが望ましい福祉分野	6 1
5-8 市が優先して取り組むべき保健・福祉施策	6 2
(2) 健康づくり	
5-9 日頃のストレスの有無	6 3
5-10 自分の健康状態	6 4
5-11 健康維持・増進のために自ら心がけていること	6 4
6 都市交通	6 5
6-1 外出の際に利用する交通手段	6 5
6-2 駅までの交通手段	6 6
6-3 交通手段の転換意向	6 7
6-4 交通手段利用時の不満度	6 8
6-5 不満を感じる理由	6 9
6-6 不満を感じない理由	7 0
6-7 交通手段の転換を進める際の課題	7 1
6-8 J R 八王子駅等の駅周辺の交通環境の課題	7 2
6-9 今後の交通環境の整備に期待すること	7 3

7 市政への要望	7 4
7-1 重点施策要望	7 4
第2章	7 8
8 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の達成度	7 8
8-1 「協働」という言葉の認知度	7 8
8-2 「協働」が必要だと感じる分野	7 9
8-3 市の「協働」推進状況	8 0
8-4 市政情報への関心度	8 1
8-5 市政情報の入手媒体	8 2
8-6 現在の情報入手方法の満足度	8 3
8-7 市政情報の入手にあたり効果的な改善点	8 4
8-8 1年間でボランティア活動への参加の有無	8 5
8-9 1年間で盆踊りや清掃等地域行事への参加の有無	8 6
8-10 市の相談窓口の利用の有無	8 7
8-11 市の相談窓口を利用しない理由	8 8
8-12 市が行っている相談の認知状況	8 9
8-13 市が行っている相談の認知媒体	9 0
8-14 市の相談窓口の充実度	9 1
8-15 かかりつけの医療機関の有無	9 1
8-16 1年間に取り組んだ学習活動	9 2
8-17 取り組んだ学習活動の頻度	9 3
8-18 今後取り組みたい学習活動	9 4
8-19 1年間に行ったスポーツの内容	9 5
8-20 スポーツをした理由	9 7
8-21 1年間に行ったスポーツの頻度	9 8
8-22 『八王子八十八景』の認知度	9 9
8-23 魅力的だと感じる景観	1 0 0
8-24 居住地域の景観への配慮の有無	1 0 0
8-25 景観づくりに必要なこと	1 0 1
8-26 市外から八王子市を訪れる人の目的	1 0 2
8-27 八王子市のにぎわいと活力の有無	1 0 2
8-28 「八王子市環境基本条例」の認知度	1 0 3
8-29 環境問題への関心度	1 0 4
8-30 関心のある環境問題	1 0 5
8-31 省エネ・省資源のために行っていること	1 0 6

Ⅲ 質問と回答	1 0 9
---------	-------

調査の概要

調査の概要

1. 調査の目的

市民の生活環境への意識、市の施策に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、本市のまちづくりに有効に活用するほか、本調査を通じて市民参加・市民と市との協働によるまちづくりを推進する。

2. 調査設計

(1) 調査地域 : 八王子市内全域

(2) 調査対象 : 市内在住の満20歳以上の男女個人

(3) 対象者数 : 3,000人

(4) 抽出方法 : 層化2段無作為抽出法(層化→地点抽出→対象者抽出)

層化...「八王子ゆめおりプラン」で示された本庁・事務所管轄区域に基づき、6地域に区分する。(下図の地域区分図参照)

地点抽出...各地域の調査対象人口(満20歳以上男女)に応じて調査対象を配分する。調査対象に基づいて合計100地点となるように各地区の地点数を決定、地点を抽出する。

対象者抽出...抽出された各地点において対象者が30人となるよう無作為系統抽出を行う。

本調査における地域区分

中央地域 : 本庁管内
西部地域 : 元八王子・恩方・川口
西南部地域 : 浅川・横山・館
北部地域 : 加住・石川
東南部地域 : 由井・北野
東部地域 : 由木・由木東・南大沢



(5) 調査方法 : 郵送配布・郵送回収(ご協力のお礼とご回答のお願いハガキ 1回)

(6) 調査期間 : 平成15年6月20日～7月3日

(7) 調査機関 : (株)サーベイリサーチセンター

3. 調査項目

(1) 定住意向

(2) 生活環境

(3) 防犯・防災対策

(4) 文化振興の推進

(5) 地域福祉

(6) 都市交通

(7) 市政への要望

(8) 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の達成度

4. 回収結果

対象者数 : 3,000人

有効回収数 : 1,717票

有効回収率 : 57.2%

5. 報告書の見方

- (1) 回答は各質問の回答者数 (n) を基数とした百分率 (%) で表示してある。
- (2) 百分率は小数第二位を四捨五入してあるため、比率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の場合には回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- (4) 全体には属性無回答を含むため、男女別等の属性別計の数と一致しない。
- (5) 作図・表の都合上、設問や回答の選択肢及び数値を省略している場合がある。

【標本誤差について】

調査結果の比率から母集団 (20歳以上の市民全体) の傾向を推測するには、統計上の誤差 (標本誤差) を考慮する必要がある。この誤差は回答者数と各設問の回答の率から、以下の式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N - n}{N - 1} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

N = 母集団数
n = 比率算出の基数 (サンプル数)
p = 回答の比率

各回答比率における標本誤差早見表

回答の比率 (p) 基数(n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,717	± 2.1%	± 2.7%	± 3.1%	± 3.3%	± 3.4%
1,500	± 2.2%	± 2.9%	± 3.4%	± 3.6%	± 3.7%
1,000	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
500	± 3.8%	± 5.1%	± 5.8%	± 6.2%	± 6.3%
250	± 5.4%	± 7.2%	± 8.2%	± 8.8%	± 8.9%
100	± 8.5%	± 11.3%	± 12.3%	± 13.9%	± 14.1%
50	± 12.0%	± 16.0%	± 18.3%	± 19.6%	± 20.0%

(注) 表は $\frac{N - n}{N - 1} \times 1$ として算出した。

【早見表の見方】

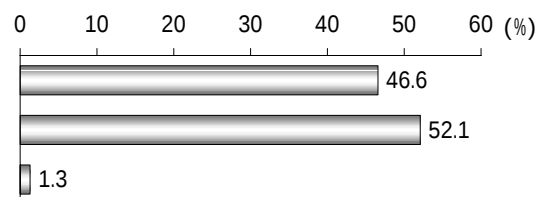
たとえば、「定住意向」について、「当分は住み続けたい」と回答した人は、全体 (n = 1,717) の41.9%であった。このケースでは抽出に伴う標本誤差は早見表より「± 3.3%」であるから、八王子市の20歳以上の人で「当分は住み続けたい」と考えている人は、標本誤差を補正すると38.6%から45.2%の間にあるということになる。

また、この計算式は信頼度を95%に設定してあるので、そのように考えて95%間違いがないということである (信頼度を99%に上げると誤差の幅はさらに大きくなり、実用に不適当なため95%を採用している)。

6 回答者の属性

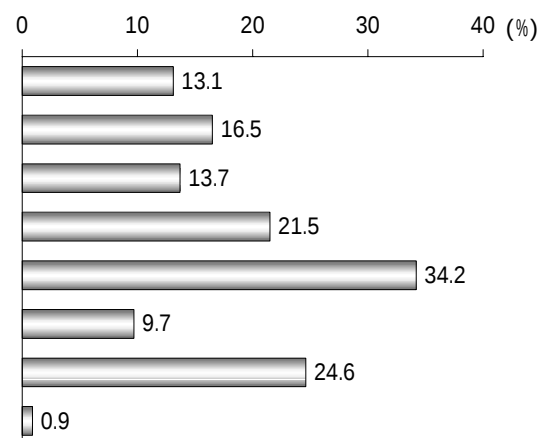
1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	800	46.6
2 女性	895	52.1
無回答	22	1.3
合 計	1,717	100.0



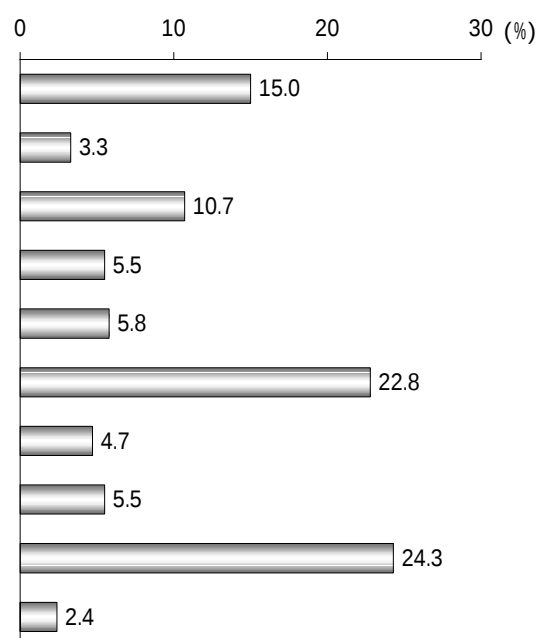
2 年齢

	基数(人)	構成比(%)
1 20代	225	13.1
2 30代	283	16.5
3 40代	235	13.7
4 50代	370	21.5
5 60歳以上	588	34.2
(60～64歳)	166	9.7
(65歳以上)	422	24.6
無回答	16	0.9
合 計	1,717	100.0



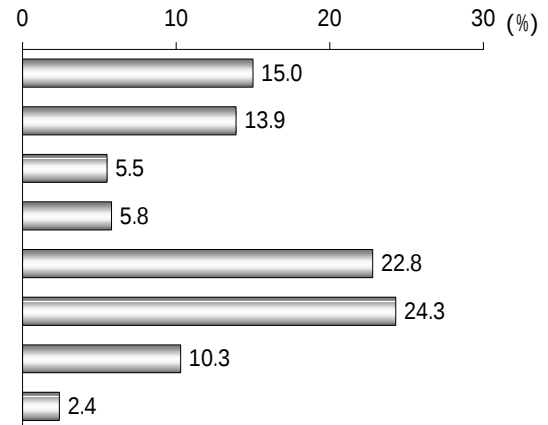
3 ライフステージ

	基数(人)	構成比(%)
1 20～39歳で単身者	258	15.0
2 20～39歳で配偶者がいて子どもがいない	56	3.3
3 20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前	183	10.7
4 20～64歳で一番下の子どもが小学生	95	5.5
5 20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生	99	5.8
6 20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している	391	22.8
7 40～64歳で単身者	81	4.7
8 40～64歳で配偶者がいて子どもがいない	95	5.5
9 65歳以上	417	24.3
無回答	42	2.4
合 計	1,717	100.0



■ ライフステージ（集約型）

	基数(人)	構成比(%)
独身期	258	15.0
家族形成期	239	13.9
家族成長前期	95	5.5
家族成長後期	99	5.8
家族成熟期	391	22.8
老齢期	417	24.3
その他	176	10.3
無回答	42	2.4
合 計	1,717	100.0

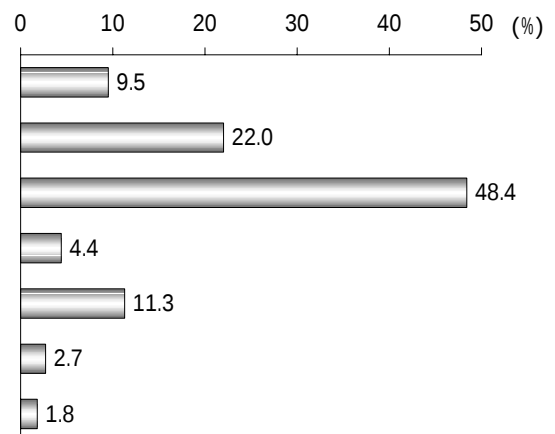


＊ ＊ ライフステージ区分 ＊ ＊

独 身 期	20～39歳で単身者
家 族 形 成 期	20～39歳で配偶者がいて子どもがいない または、20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	20～64歳で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生
家 族 成 熟 期	20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している
老 齢 期	65歳以上
そ の 他	40～64歳で単身者 または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない

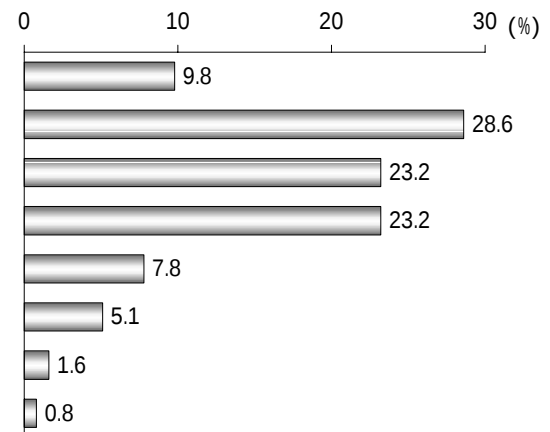
4 世帯構成

	基数(人)	構成比(%)
1 ひとり暮らし（単身世帯）	163	9.5
2 夫婦のみ（一世代世帯）	377	22.0
3 親と未婚の子ども（二世代世帯）	831	48.4
4 親と子ども夫婦（二世代世帯）	75	4.4
5 親と子どもと孫（三世代世帯）	194	11.3
6 その他	46	2.7
無回答	31	1.8
合 計	1,717	100.0



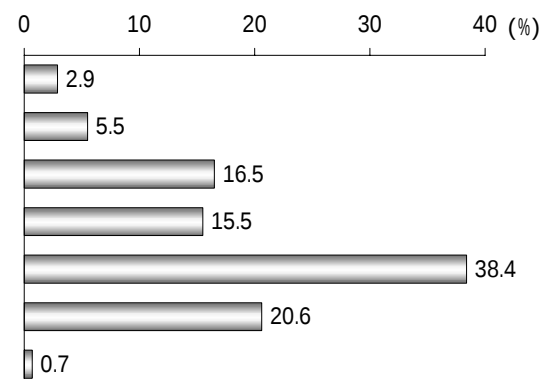
5 同居家族人数

	基数(人)	構成比(%)
1 1人	168	9.8
2 2人	491	28.6
3 3人	398	23.2
4 4人	398	23.2
5 5人	134	7.8
6 6人	87	5.1
7 7人以上	27	1.6
無回答	14	0.8
合 計	1,717	100.0



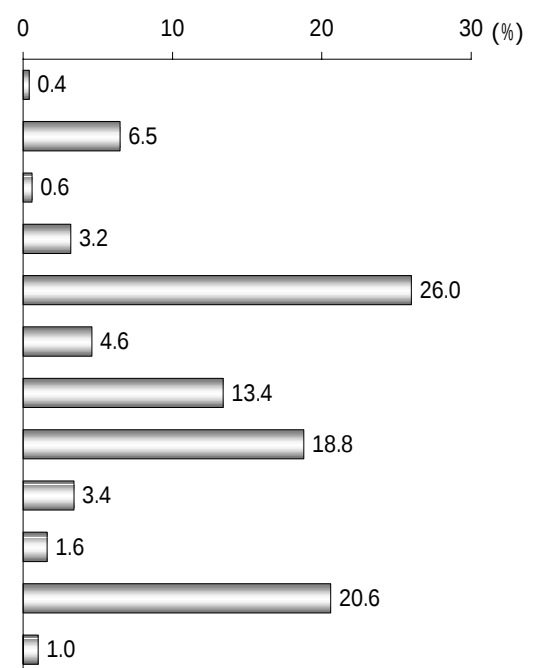
6 居住年数

	基数(人)	構成比(%)
1 1年未満	49	2.9
2 1～3年未満	95	5.5
3 3～10年未満	283	16.5
4 10～20年未満	266	15.5
5 20年以上	659	38.4
6 生まれてからずっと	353	20.6
無回答	12	0.7
合 計	1,717	100.0



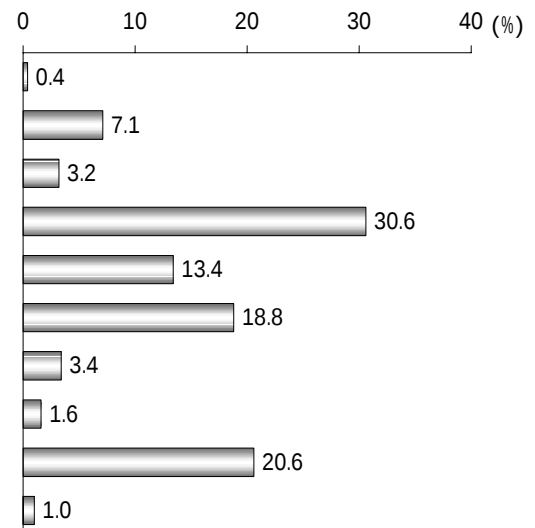
7 職業

	基数(人)	構成比(%)
1 農・林・漁業	7	0.4
2 自営業	112	6.5
3 自由業(開業医、弁護士、司法書士など)	10	0.6
4 会社や団体の役員	55	3.2
5 会社・商店・サービス業などの勤め人	446	26.0
6 教員・公務員	79	4.6
7 アルバイト・パート	230	13.4
8 (専業)主婦・主夫	322	18.8
9 学生	59	3.4
10 その他	27	1.6
11 無職	353	20.6
無回答	17	1.0
合 計	1,717	100.0



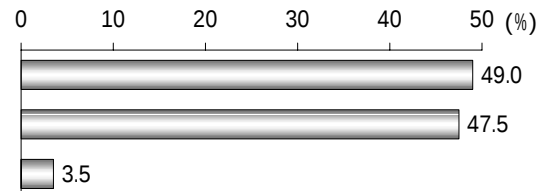
■職業（集約型）

	基数(人)	構成比(%)
農・林・漁業	7	0.4
自営業・自由業	122	7.1
会社や団体の役員	55	3.2
サラリーマン	525	30.6
アルバイト・パート	230	13.4
（専業）主婦・主夫	322	18.8
学生	59	3.4
その他	27	1.6
無職	353	20.6
無回答	17	1.0
合 計	1,717	100.0



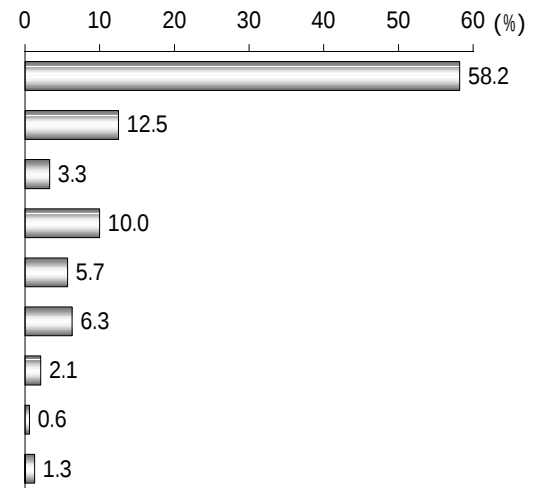
7 - 1 仕事場

	基数(人)	構成比(%)
1 八王子市内	460	49.0
2 八王子市外	446	47.5
無回答	33	3.5
合 計	939	100.0



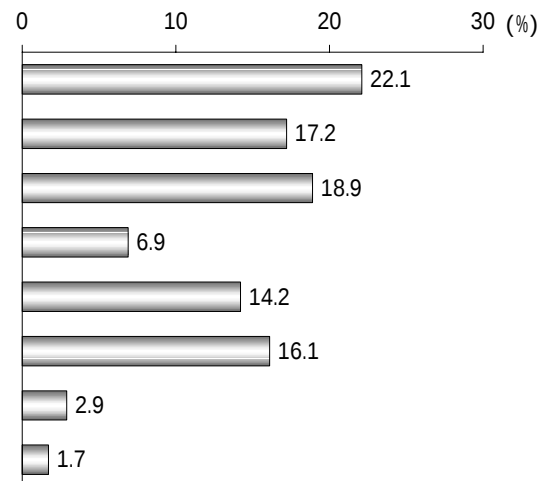
8 住居形態

	基数(人)	構成比(%)
1 一戸建て（持ち家）	999	58.2
2 分譲マンション	215	12.5
3 一戸建て（借家）	57	3.3
4 民間の賃貸アパート・マンション	171	10.0
5 公団・公社の賃貸住宅	98	5.7
6 都営・市営住宅	108	6.3
7 社宅・官舎・寮	36	2.1
8 その他	10	0.6
無回答	23	1.3
合 計	1,717	100.0



9 居住地域

	基数(人)	構成比(%)
1 本庁管内（中央地域）	380	22.1
2 元八王子・恩方・川口（西部地域）	296	17.2
3 浅川・横山・館（西南部地域）	324	18.9
4 加住・石川（北部地域）	119	6.9
5 由井・北野（東南部地域）	244	14.2
6 由木・由木東・南大沢（東部地域）	276	16.1
（不明）	49	2.9
無回答	29	1.7
合 計	1,717	100.0



10 町会や自治会の加入状況

	基数(人)	構成比(%)
1 入っている	1,386	80.7
2 入っていない	301	17.5
無回答	30	1.7
合 計	1,717	100.0

